



# 月刊部品新聞

2011年6月  
第64号

編集・発行 Unit

## 名誉博士号受賞

残念ながら私のも  
ではありません。  
先日、日本体育  
大学で行われた、  
猪谷千春氏の名誉  
博士号授賞式と記  
念講演に出席してき  
ました。

### 猪谷氏について

スポーツに関わって  
いる方であれば、猪  
谷氏の名前を知らない  
方はいないでしょ  
う。

前IOC副会長でも  
あり、日本オリンピッ  
ク委員会(IOC)理  
事、世界アンチ・ドー  
ピング機構(WADA)  
倫理・教育委員会  
委員など国内外の  
様々な役職を歴任  
してきました。

本人初の冬季五輪、  
第7回オリンピック  
冬季競技大会(コル  
チナ・ダン・ペツォ  
)の男子回転で銀メ  
ダルを獲得してい  
ます。

ながらオリンピックに  
向けてトレーニングを  
行っていたそうです。  
引退後は競技者として  
だけでなく、  
仕事人としても一流  
であります。

### 講演内容

「我がスポーツ人  
生」というタイトル  
で講演が始まりまし  
た。まずはIOCの  
委員について話があ  
りました。そもそも  
それぞれの国を代表  
してIOCの委員にな  
っているのではな  
く、IOCを代表し  
てそれぞれの国に派  
遣されているそうで  
す。とはいっても現  
在ではNOCの推薦  
がなければIOCの委  
員になることは実質  
的に無理だそうで  
す。

それこそ昔は会議  
といつてもすべて自腹  
で行っていたそうで  
す。それゆえに金  
銭的負担も大きく、  
貴族など限られた方  
しか委員になること  
もできなかったそう  
です。

日本人では1909  
年(明治42年)に嘉  
納治五郎氏が日本  
人として初めての  
IOC委員になり、  
それから岡野俊一郎  
氏まで12名が途切れ  
ることなくIOC委  
員として活動してき

ましたが、今年いっ  
ぱいで猪谷氏、岡野  
氏の定年によりそれ  
が途絶えてしまいま  
した。

しかし来春のIOC  
の理事会で、IOC会  
長の竹田恒和氏が選  
出され、ロンドンオ  
リンピックの時に行わ  
れる総会で承認され  
る見通しとなってい  
るそうです。

### オリンピックは手段

IOCは以前と比較  
して変化をしてく  
ているそうです。政治  
にも積極的に働きか  
けをし、商業主義  
も取り入れ、出場  
資格プロも参加でき  
るようになると変  
わってきています。

商業主義については  
賛否両論があるが、  
猪谷氏は「人体にお  
けるコレステロール的

役割」と述べていま  
した。ありすぎては  
困るが、なければな  
らないものというこ  
とだそうです。

これについてはオリ  
ンピックムーブメント  
を世界に広める手段  
の一つとして、オリ  
ンピックが存在し、  
決してオリンピックを  
開催することが目的  
ではないそうです。

しかし資金がなけ  
ればオリンピックを  
開催することができ  
ない。そこで商業主  
義を取り入れてきた  
経緯もあります。

表面上は金儲け主  
義に見えますが、  
実際の理念とはかけ  
離れて誤解をされて  
いるようです。

### 文武両道

アメリカ留学中に  
やはり文武両道の難

氏名	在任期間
嘉納治五郎	1909-1938
岸清一	1924-1933
杉村陽太郎	1933-1936
副島道正	1934-1948
徳川家達	1936-1939
永井松三	1939-1950
高石真五郎	1939-1967
東龍太郎	1950-1968
竹田恒徳	1967-1982
清川正二	1969-1989
猪谷千春	1982-
岡野俊一郎	1990-

## 日本人歴代IOC委員

### Unit代表 澤野博(さわの ひろし)

日本体育大学卒。社会人経験を経て欧州へ留学。乳酸を中心としてトレーニングを幅広く学ぶ。帰国後、部品となって競技者を支えるという意味で「Unit」を設立。競技種目、競技レベルを問わずトレーニング指導を中心に活動。医療系国家資格の臨床検査技師の資格を持つ異色のフィジカルコーチ。NSCA CSCS、JADA DCOなども保有。  
ご意見、ご要望、仕事依頼、お問い合わせは下記まで。  
0422-34-5055(Fax 兼用)、090-1999-2845 または sawano@team-unit.com

しさに直面したそう  
です。通常であれば  
トレーニングをしなが  
ら勉強をすると思え  
ます。これは皆さん  
も経験があると思  
いますが、うまくいき  
ません。疲れ切つて  
勉強は頭に入りませ  
んよね。そこで勉強  
をしながらトレーニ  
ングを行うというこ  
を考えたそうです。  
教科書を腕立ての  
姿勢やスクワットの  
姿勢で読む。確かに  
これならば勉強をし  
ながらトレーニングが  
できます。  
それらのトレーニン  
グが効率的かは別に  
しても、常に工夫を  
して上を目指すた  
めに何かを行ってゆ  
くという考え方は競  
技者だけでなく、我  
々コーチもしてゆか  
なければいけないの  
ではないでしょうか。